

## 「お正月」

笠松町 藤井 英俊

昨年末、私のお寺に珍しい訪問者がありました。

本堂で翌日の法要準備をしておりますと、一見してサイクリングの途中と思われる若い女性 2 人が境内に入ってきました。少しモジモジした様子だったので『よかったですか』と本堂内に招いたところ、たどたどしい日本語で中国から来て近くに住んでいる仏教徒であると話してくれました。突然『いいですか?』とお尋ねになりましたが何のこともかを理解するまもなく反射的に『いいですよ』と答えたところ、参拝席の最前列に進み、その場で立ったままご本尊に合掌したと思った瞬間、素早く正座し、両肘に続いて額を、畳に着くまで頭礼をしました。

これは大無量寿経にも出てくる五体投地という最高の礼拝の作法であり、間近ではじめてみせていただきました。結局彼女はその場で立ったり座ったりの五体投地をなんと 12 回繰り返しました。

私達真宗門徒の多くは仏様の前では静かに合掌をしますが体全体を使う五体投地を異国の地でしかも初めての場所で丁寧に行う若者がいることに驚きました。1 月も半分以上過ぎましたがこの時期、お寺の掲示板などでよく目にする、蓮如上人が弟子の道徳に元日に申されたとされる『道徳はいくつになるぞ。道徳念仏申さるべし』という御言葉があります。

『蓮如上人御一代記聞書』ではこの後も続きますが、年を重ねた弟子の道徳が例年通り新年のご挨拶をされた時、あらためてお念仏の有り様を、あえておめでたい元日に『念仏申しているか?』とお示しになられたということです。いつものように本堂を掃除して、いつものようにお寺の守を住職としてしっかり出来ていると思込んでいる私に知らず知らず自力の中でただ過ごしていることを中国人女性が『いくつになったの?』と諭しにきてくれたようでした。